

ひとマチ点描 汁に凝ったうどんが好評

22° Festival do Japão

日本まつり

2019年7月11日 New! ニッケイ新聞



岩手県人会の千田会長（中央）

県連日本祭りでブラジル岩手県人会は、三陸わかめうどん、コロツケ、餃子、岩手そばなどを販売したが、他県人会と同様に売上げ減に苦しんだという。

6日（土）晚、千田曠曉会長は「去年は110周年で特別だったけど、今年は一昨年より売上げが少ない感じだね。同じものを同じ様に作っているんだけど…」と戸惑いを隠さない。野菜を切る人、餃子を焼く人、うどんをゆでる人など所狭しと役員や婦人部が総動員され、30人ほどが切り盛りしていた。

特に工夫をしたのが、うどんの汁だそう。「詳しい人に相談して、美味しくなると聞いたいろいろな食料をあれこれ入れている」という凝りようだ。千田会長自らが「汁の味を確認する」という。当日寒かったせいか「三陸わかめうどんは700食分用意して、残ったのは1キロのみ」。全体として売上げが伸び悩む中で、かなり貢献した。

ただし、前週末に婦人部が、マンジョッカ400キロを茹でて潰し、具には挽肉とトウモロコシをいれたコロツケ4700個を用意したが、「残ったので冷凍保存した」という。千田さんは「不況でお客さんの財布の紐もかたかったのかな」との感触。ここはやはり、ポウソナロ大統領に早く景気回復策を打ち出してほしいところだ。（深）